

令和8年度病虫害発生予報第2号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	イネミズゾウムシ	やや多	やや多
トマト	コナジラミ類（防除情報第4号）	やや多	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病	やや少	やや少
	炭疽病	並	並
	ハダニ類	やや多	やや多
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	そうか病	やや少	やや少
	かいよう病	並	並
	黒点病	—	並
	ミカンハダニ	やや多	やや多
	アブラムシ類	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	ヤノネカイガラムシ	—	並
びわ	がんしゅ病	少	少
	灰斑病	少	やや少
	ナシマルカイガラムシ	並	並
	ナシヒメシンクイ	やや多	やや多
果樹共通	カメムシ類 （令和8年5月12日付け病虫害発生予察注意報第1号を参照）	多	多
茶	炭疽病	やや多	やや多
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	少	少
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	少	少
	クワシロカイガラムシ	少	少
	カンザワハダニ	少	少

【発生予報】

本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（22筆）の結果、発病株率は5.4%、発生圃場率は9.1%（発生を認めない）であり、一部多発圃場がみられた。

イ 5月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

(3) 防除上注意すべき事項

圃場内で進行型病斑を認めた際には本田防除を行う。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（22筆）の結果、食害株率は17.9%（7.0%）、食害発生圃場率は63.6%（48.2%）、株当たり寄生成虫数は0.0頭（0.0頭）であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、食害株率は8.0%（40.8%）、成虫の寄生株率は2.0%（3.0%）、株当たり寄生成虫数は0.0頭（0.0頭）であった。

トマト

1. コナジラミ類

令和8年5月15日付け**病害虫発生予察防除情報第4号**による。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（28筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率1.8%）。

2. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（28筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、育苗床及び周囲の除草を徹底するなど、環境整備に努める。また、雨よけ育苗施設を有する圃場は積極的に被覆を行い、降雨等による病原菌の跳ね上がりを防止する。

イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗も処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置せず適切に処分する。

ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤をローテーション散布する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（28筆）の結果、寄生株率は5.8%（3.9%）、発生圃場率は35.7%（29.3%）であった。

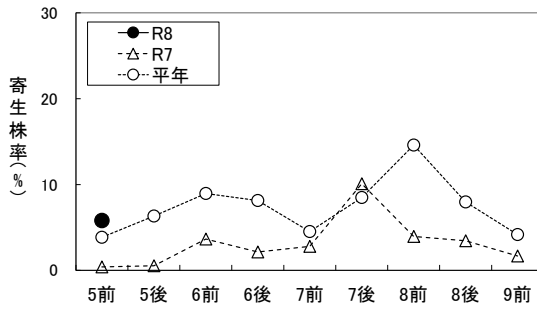


図 ハダニ類 寄生株率の推移(育苗圃)

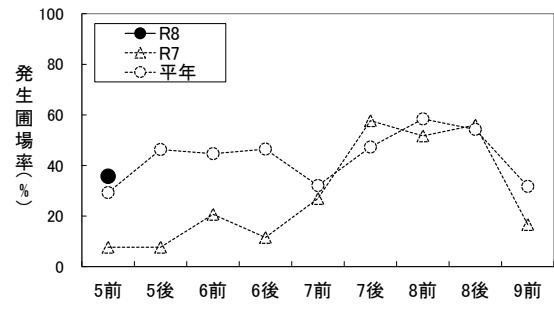


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(育苗圃)

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 土着天敵の活動が活発になる時期であり、天敵への影響が大きい薬剤の使用は避け、気門封鎖剤等の天敵に影響の少ない薬剤を積極的に使用する。なお、気門封鎖剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。

イ 薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤(令和8年長崎県病害虫防除基準P186～187の「作用機構による分類(I R A C)」参照)の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

エ 親株切り離し後は、苗の間隔を開け薬剤防除を徹底する。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(10筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所)は5.3頭(11.2頭)、発生圃場率は40.0%(63.4%)であった。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率3.8%)。

(3) 防除上注意すべき事項

落弁期～幼果期の防除を徹底する。

2. かいよう病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は6.0%(3.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。

3. 黒点病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 落弁期以降、幼果期の初期から感染が始まる。梅雨入り等気象の推移に留意し、予防を念頭に薬剤散布を実施する。

イ 枯れ枝は伝染源となるので見つけ次第除去し、圃場外へ持ち出す。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は6.1%(1.5%)、発生圃場率は25.0%(14.9%)であった。

5. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生新梢率は0.2%(0.4%)、発生圃場率は16.7%(14.6%)であった。

6. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。

イ 各地の第2・第3世代成虫の発生ピーク予測日は表のとおりで、前年より早～やや早い(表)。

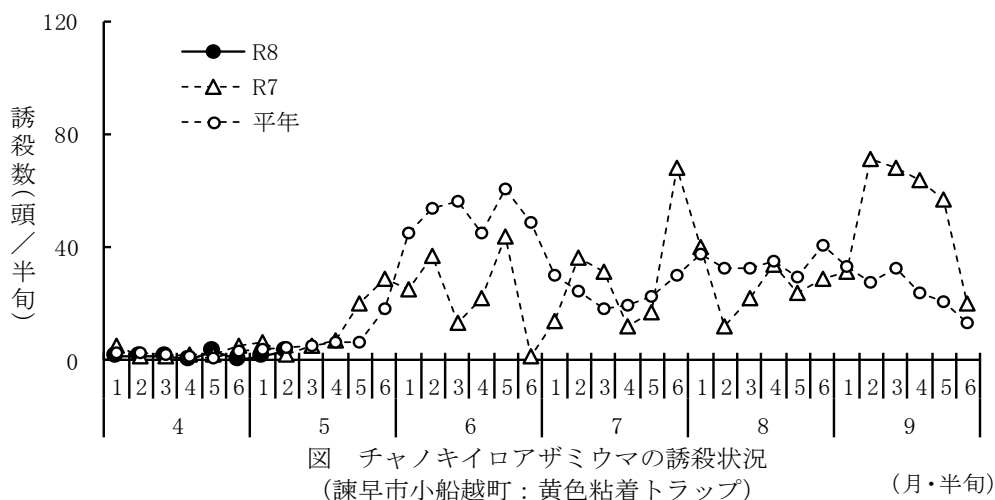


表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（令和8年5月13日時点）

地点名/標高 (位置の目安)		第2世代	第3世代
長崎/26.9m (气象台)	今年	5/29	6/22
	前年	6/5	6/26
佐世保/3.9m (佐世保港付近)	今年	5/31	6/23
	前年	6/7	6/28
島原/14m (島原外港IC付近)	今年	5/29	6/22
	前年	6/4	6/25
大村/3m (長崎空港)	今年	6/1	6/24
	前年	6/8	6/28
平戸/57.8m (岩の上町)	今年	6/11	7/5
	前年	6/18	7/7
口之津/13m (口之津港付近)	今年	5/31	6/23
	前年	6/8	6/29

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には令和8年5月12日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。

また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3:表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が**0.1頭**に達する前に防除を行う。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 上表の発生ピーク予測日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ 発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

7. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 令和7年12月上旬に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査（15筆）の結果、ヤノネカイガラムシの寄生果は認めなかった（発生を認めない）。

イ 各地の初発予測日は、平年及び前年よりやや早い（表）。

(3) 防除上注意すべき事項

下表に示した初発生予測に基づき、使用する薬剤に応じて適期に防除する。

表 ヤノネカイガラムシ初発生および防除適期の予測日(2026年5月1日時点)

地点	長崎	大村	島原	口之津	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	巖原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/1	5/3	5/2	5/2	5/2	5/5	5/4	5/2	5/5	5/7	5/6
前年予測日	5/6	5/8	5/7	5/7	5/7	5/9	5/9	5/8	5/10	5/10	-
アブロード モベント防除日	5/26	5/28	5/27	5/27	5/27	5/30	5/29	5/27	5/30	6/1	5/31
トランスフォーム その他の剤防除日	6/10	6/12	6/11	6/11	6/11	6/14	6/13	6/11	6/14	6/16	6/15
標高(m)	27	3	9	10	4	5	58	25	26	4	27

注1:方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2:初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日～4月30日)を用いて算出し、
防除適期はアブロード・モベントで初発日の25日後、トランスフォーム・その他の剤で40日後とした。

注3:同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠
5月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.1%、発生圃場率8.6%)。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア せん定後にカスガマイシン・銅水和剤を散布し、感染を防止する。
イ ナシヒメシンクイの食入痕からも感染するので、本虫の防除を徹底する。

2. 灰斑病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
5月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.3%、発生圃場率14.3%)。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 収穫終了後以降、せん定作業後の残渣、罹病した落葉は圃場外に持ち出し、圃内の菌密度を低減する。
イ せん定後にカスガマイシン・銅水和剤を散布し、本病の感染を防止する。

3. ナシマルカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
ア 5月前期の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率は0.4%、発生圃場率は20%であった(発生を認めない)。
イ 有効積算温度に基づくシミュレーションの結果によると、露地びわにおける第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、県内各地で平年よりやや早い(表)。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 防除適期は第1世代1齢幼虫の発生ピークであるが、露地びわの収穫時期が重なるため、発生圃場では収穫終了後に速やかに防除する。
イ 防除薬剤のうち、昆虫成長制御(IGR)剤は齢期の進んだ幼虫に対しては効果が劣るので、散布時期を逸さないよう注意する。また、マシン油乳剤は高温時の散布では薬害を生じることがあるので注意する。

- ウ 樹冠内部の枝や幹に薬液がかかるように十分量を散布する。
- エ 同一地域内の圃場でも標高や土地条件により気温が異なるため、発生時期が予測日と前後する場合がありますので注意する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるナシマルカイガラムシ第1世代1齢幼虫の本年の発生ピーク予測日
(令和8年5月13日時点)

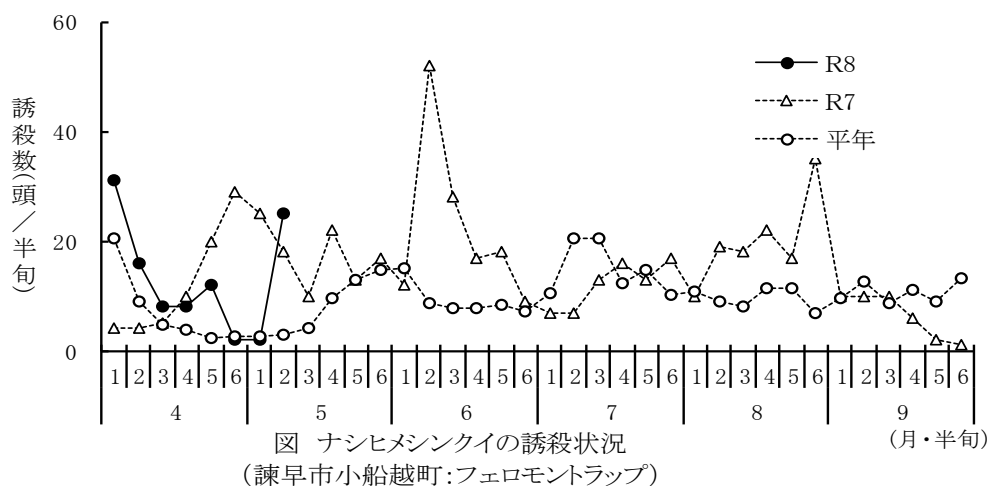
地点	長崎
発生ピーク予測日(本年)	5/19
〃 (前年)	5/22
〃 (平年)	5/24
標高(m)	27

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。
なお、5月12日までは観測値を、それ以降は平年値を用いた。

注2: 前年、平年の発生ピーク予測日はそれぞれ令和7年、平年の気象庁アメダス観測値により算出した。

4. ナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 5月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
 - イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、やや多で推移している（図）。



- (3) 防除上注意すべき事項
 - 本虫の侵入痕はがんしゅ病の感染経路となり、また、がんしゅ病の病斑部に本虫が食入すると感染が助長されるため、がんしゅ病の防除も併せて行う。

果樹共通

1. カメムシ類

令和8年5月12日付け **病害虫発生予察注意報第1号**による。

1. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は0.9枚（0.5枚）、発生圃場率は41.7%（23.1%）であった。
 - イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 二番茶の萌芽～開葉初期に重点的に防除を行う。
 - イ 多発状態の続く茶園ではせん枝により伝染源を除去する。
 - ウ 品種により本病への抵抗性に差があるため、「やぶきた」、「おくみどり」など本病に弱い品種は特に注意する。
 - エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統（令和8年長崎県病害虫防除基準P354の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

2. チャノコカクモンハマキ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率1.3%）。

3. チャノホソガ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠
 - ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率6.7%）。

4. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は2.5頭（1.8頭）、発生圃場率は66.7%（58.8%）であった。

5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠
 - ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は0.2頭（4.6頭）、発生圃場率は8.3%（50.7%）であった。

6. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠
 - ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率1.5%、発生圃場率15.0%）。

7. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠
 - ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.2%（0.9%）、発生圃場率は8.0%（20.6%）であった。

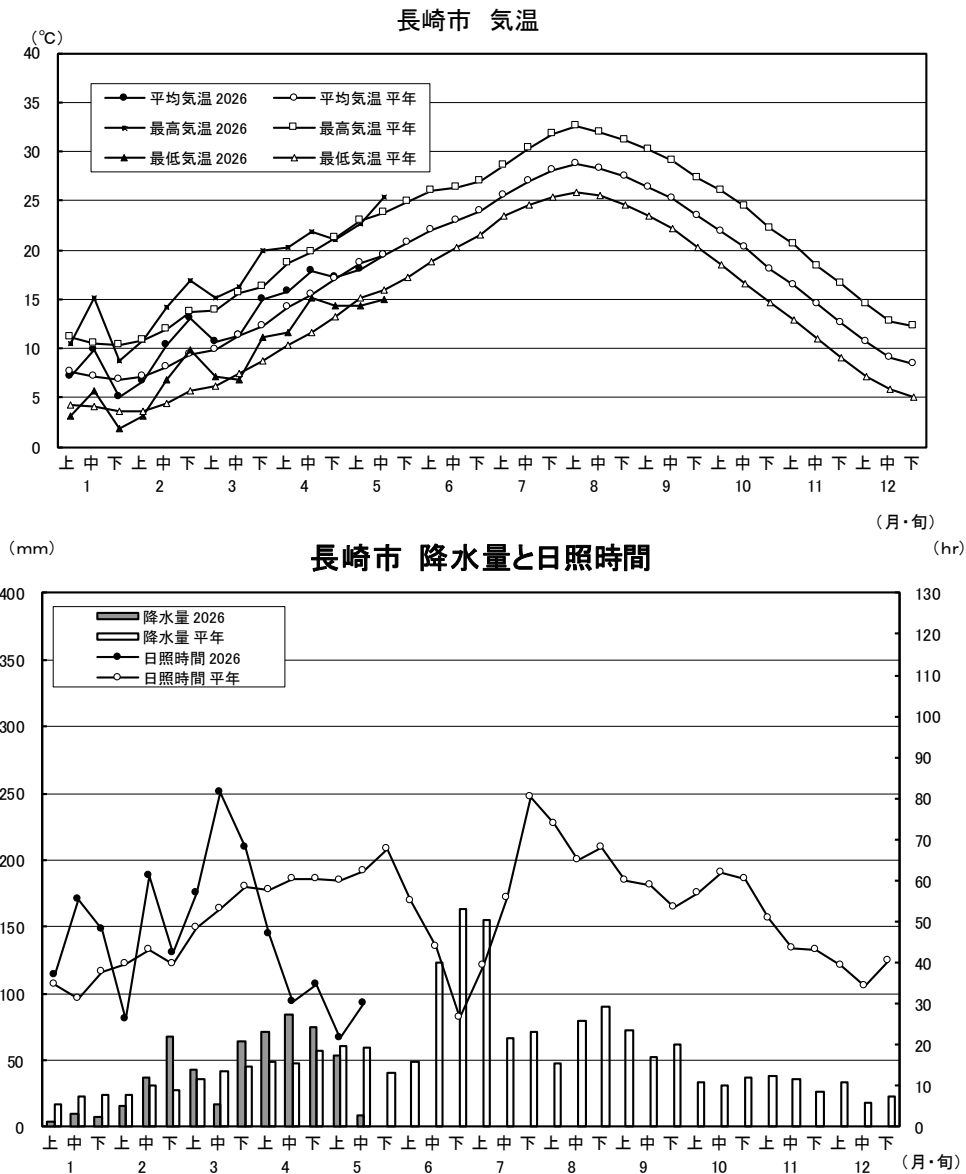
【参考】

(令和8年5月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	10	80
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

令和8年の気象経過(長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

